令和６年度 学力向上プラン

長崎市立虹が丘小学校

学力向上

学びに向かう姿の向上

学習規律

《レインボースタンダード》

◇休み時間は、次の時間の準備を済ませ、時間前に着席。
◇授業のはじめと終わりには、きちんとあいさつ。
◇背中を伸ばして正しい姿勢。
◇名前を呼ばれたら「はい」と返事。
◇みんなの方を向いて発表。
◇大きな声ではっきりと話す。
◇話す人の方を向いて聞く。
◇問いかけには、返事やうなずきで反応。
◇すべての学習用具に記名。
◇筆箱の中には、鉛筆５本・赤鉛筆（赤ペン）・青鉛筆（青ペン）・消しゴム・定規・書き方ペンだけ。
◇宿題は、決められた日までに提出。
◇豊富な読書量。

わかる授業

◇問題解決的な学習過程をふまえ、子どもたちが学習の見通しをもてるようにする。
◇子どもたちが、自分たちで立てた「めあて」に沿って、主体的に解決に取り組めるようにする。
◇自分の考えを大切にさせ、お互いに正誤にこだわらないようにさせる。
◇友達の考えを大切にさせ、自分の考えに広がりをもたせるようにする。
◇自分の言葉でまとめさせることで、本時の学習で獲得したことを整理させる。
◇Chromebook 等の活用等、個別最適な学びを保障する。

生徒指導

◇自己肯定感を高める指導　◇相手を思いやる心の育成
◇違いを認め合う心の育成　◇規律を守る態度の育成

☆自分の興味関心に左右されたり、途中であきらめたりすることなく、納得できるまで取り組む子どもを育てる。
☆正誤に関わらず、一人一人の考えをお互いに大切にし、安心して発表できる支持的風土を醸成する。

授業改善

主体的・対話的で深い学びの実現

◇主体的な学びに向けて
・子どもたちの気付きや感想を引き出す導入の工夫
・関連する既習事項や経験を想起させる手立て
・自力解決の時間の確保、協働の許容、Chrome book の活用→個別最適な学び
◇対話的で深い学びに向けて
・話合いの時間の確保と視点の明確化
・本時のまとめの表現活動の設定

特別支援教育

◇学習に集中できる環境整備
◇わかりやすい教材等の提示
◇スモールステップの発問・指示
◇自力解決の場における個別の支援

☆すべての子どもが学びに参加でき、多様な学びに対して柔軟に対応できるようにする。

主体的な学びの姿と基礎・基本の定着

◇授業と連動した「家庭学習課題」や「はげみタイム」で、基礎・基本の定着を図る。（Qubena の活用）
◇家庭学習の手引きを基盤とした家庭学習の習慣化を図る。

校内研究　ICT 機器やＡＩドリルなどを、教科の特性に応じて効果的に利用し、個別最適な学びや協働的な学びを行き来させることで、対話力・活用力・探究力を高める。（令和５年度分）

現職教育　人権教育を基調に、生徒指導、特別支援教育、ICT 機器の効果的活用等、教職員としての指導力向上を目指す。

課題　全般的に学習に向かう姿は良い方向に向かっている。しかし、興味関心に左右されたり、難しい課題には向かえなかったりする姿もある。領域においては、国語科での物語文や説明文における読み取る力や表現する力、算数科での文章題において題意を読み取る力に課題が見られる。基礎・基本の定着は勿論、見通しのもてる、わかりやすい学習過程で授業を仕組むとともに、思考する場や表現する場を意図的に設定していくことが必要。